



秋厚労ニュース

住民行政病院

共通
目標

お産できる鹿角

住民集会

かづの厚生病院の産婦人科医師を引き上げ、お産を大館に集約する話が進む中、3月4日「お産ができる鹿角を望む住民集会」が開催され130人が参加。住民・行政・病院が「お産できる鹿角」を共通目標として確認し、力を合わせて産婦人科医師を探すことになりました。



医師見つければお産再開

今回、集会の前段30分

を約束しました。

集会で思い共有

間、鹿角市主催の「住民説明会」を挿入。秋田県医務薬事課・鹿角市いきいき健康課・かづの厚生病院院長が、それぞれの立場で事態と方針を説明しました。今回の「分娩集約」の背景には、①出生数の減少、②医師不足、③安全分娩体制の3点があること。大館市立病院の受入体制ができ次第、秋ごろには「集約化」することなどが語られました。

ただし、二者ともに「鹿角に来てくれる医師を探す」「医師が見つかったら鹿角でのお産を再開すること

曜日の午前中

に設定したため、子どもからお年寄りまで一堂に会す、今までとは少し違う雰囲気。さらに、100人近い高校生が、自分の将来を見据えた「手紙」で集会に参加。若い人の思いを受け止める機会にもなりました。

子育て支援誇る鹿角で

その後の「住民集会」では、妊娠中の人、妊婦さんの夫、出産経験者など5人の住民代表が壇上から「思い」を語り、フロアからもたくさんの方が発言。「鹿角でお産ができないなら2人目・3人目は産まない」「子育て支援がすごく充実しているから鹿角で産みたい」など、地域への熱い思いを共有しました。今回は、あえて集会を日

住民集会で確認された「これからの行動」(抜粋)

- ① 住民は「お産ができる鹿角」を望んでいることをアピールしましょう
 - ☆ 一番大事なのは「住民の意思」をはっきりと示し、ぶれず、あきらめないことです。
 - ☆ 世論調査、アンケート、街頭インタビュー、投書、知事への手紙、新聞への投稿、ラジオへのリクエスト、SNSなど、あらゆる機会を使って、「住民はお産ができる鹿角を望んでいること」を、広く、いつまでも、繰り返しアピールしましょう。
- ② 全国に発信して「鹿角に来てくれる産婦人科のお医者さん」を探しましょう
 - ☆ 「大学まかせ」にせず、住民自身の手で産婦人科のお医者さんを探しましょう。
 - ☆ 北海道遠軽地区(遠軽町、佐呂間町、湧別町)では、行政が中心になって、関西・首都圏の電車で宙吊り広告を掲載。また、全国9,700人の医師にダイレクトメールを送るなどの努力が実り、ゼロだった産婦人科医師が2人に増えました。
- ③ 「地域で医療を支える」ための様々な方策を考え出しましょう
 - ☆ 医師は「魅力ある病院」が「魅力ある地域」で働きたいと考えています。さしあたり住民として出来ることは「魅力ある地域」をつくることです。
 - ☆ また、以前は、何でもかんでも「医師にお任せ」という傾向がありました。これを機会に、住民自身で出来ることを考えましょう。

この集会の主催は、「鹿角の産婦人科を守る会」と「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」の2つの住民団体。鹿角・小坂両議会が後援し、医師会・教育委員会・大小さまざまな事業所など49団体が協賛するということ、かつてない後押しの中で行われました。鹿角は、予約のない託児も受入れるなど、以前から「手厚い子育て支援」には定評があり、官民が力を合

医師探し全国に発信

わせて「人口問題」にチャレンジしている地域。誰しも事の重大性を肌で感じています。一方、先頃「住民運動に共感する精神科医師が赴任」という嬉しいニュースも流れたばかり。住民集会には数多くのマスメディアも注目しました。

ができる鹿角」を望んでいることをあらゆる場面でアピール、②鹿角に来てくれる産婦人科医師を探す、③地域で医療を支える方策を皆で考える、の3点が参加者の承認を得ました。午後からは、さっそく「行動の具体化」に関する打合せが行われ、28人が参加。当面、「精神科の医師を探した方法」に準じてチラシをつくり、全国に発信することになりました。